

不動澤炭礦 平署で警戒

石城郡内郷村字白水不動澤炭礦を解雇された従業員が炭礦側に對し要求した解雇手當増額、歸郷旅費支給等の諸條項を拒絶された結果この間に大衆黨の策動しきりに行はれ純然たる争議となつたが、大衆黨中央委員の田中氏が十八日來山關係方面を歴訪し極めて紳士的な交渉を進めた結果、炭礦側でも大いに譲歩し解決の可能性を見出されたので、争議團は極めて平穩である。但し炭礦側の出様によつては同炭礦側の内紛の虚を突き無産黨一流の戦術に出づるらしいので平署では警戒中である。

水天宮の偽札を賣る

耶摩郡吾妻村大字若宮一三六番地遠藤忠一(四三)は十七日午後四時頃四倉町宇新町地内を徘徊し水天宮の御札を賣つてゐたが四倉署永山刑事が取調べた結果同人は東京市日本橋區人形町水天宮の出張員なりと詐稱し一枚十錢で偽札を賣却したることを自白した。

相馬支局通信

活動寫眞公開 原町土木監督所主催の道路愛護に關する活動寫眞は開催地警察署後援で左の日程にて行ふ。
▲十八日富岡公會堂▲十九日浪江小學校▲二十日原町小學校▲二十一日中村第一校。
映畫の夕 相馬郡原町青年團主催の日本青年館映畫會は廿四日午後七時より同町小

學校庭に於て一般に公開する由雨天の際は同校講堂にて執行すると、尙ほ二十三日は中村町、二十五日は請戸濱にても開催する筈。

相馬校の秋蠶

相馬農蠶學校第三學年生の實習に係る秋蠶は八月三日掃立、齋藤教諭の熱心なる指導により發育經過頗る良好、目下五令三日である。

横内技手送別會

原町署衛生技手横内直侯氏は今原郡山署在勤に榮轉したので送別會を十六日午後六時から原町驛前花月館に於て盛大に開催された。

優勝旗圖案懸賞募集

今秋本社主催で舉行する磐城中學校對平商業學校野球對抗試合に用ふる優勝旗圖案を左の如く募集します。
一、用紙は圖畫用厚紙
一、優勝旗の型は隨意
一、締切、八月三十一日
一、採用のものに謝金を贈る

磐城時報社

れた、同氏は家族同伴十九日任地に向け出發多數の見送りであつた。

飯坂温泉遊覽

郡中村町新開樓主村松幸作氏主催にて自動車利用飯坂温泉遊覽は二十四日に決したが、會費は金四圓(日歸り)である。
豊間浦より 飯村生 苦熱の徒歩も亦 格別だ、平町から東南中位三里の地点豊間浦海岸に至る、途中沼

之内辨財天の幽邃境に寄り古沼の放鯉、鰻、鮎の大小の雜魚に狹きと與へて感興をそゝり更に薄磯を経て岬の尖端に登ゆる塩屋崎のライトハウス(燈臺)の城壁に登り宏濶渺茫の紺青色の海を眺め、フラッシュ(お轉婆娘)が浪に跳躍する姿を睥睨する。
沼之内辨財天は古來から茨城縣某村の魚行商人と此の沼の主と言はるゝ辨天姫と戀仲となり同棲すること三年、その時、彼の姿は既に蛇體となり悲しみから故郷へ戻り一人座鼻の藥「チクノール」
平五 山野邊藥局

敷に龍城就床するや忽ち其の妻は家人に發見され翌朝、一切を開陳し最後の訣別と共に近親者 二三名に送られ、此の沼に來るや妖怪の蛇體を再び顯現し沼に飛び込むや、いづれかへ姿を沒したといふ傳説がある。
亦、塩屋崎燈臺附近には大蛇棲息し燈臺守の住家を襲ひ、或時は鉄研商人が豊間の山中の道に迷ひ之を發見驚愕した等の實話がある。

印刷物は
加納活版所へ

御中元御贈答品には
贈るに御便利、貰つて御重寶な
三井の商品券
三井呉服店

暑中御見舞

旅館 龜屋
双葉郡久之濱町北町(電話二番)

四倉漁業組合長
長谷川 長八

常磐線 四倉驛前
四倉合同運送株式會社
電話二番・一〇番

田村屋自動車部
四倉仲町(電話一三二番)

鈴木 克哉
四倉町仲町

新妻兄次郎
双葉郡久之濱町

酒銘 古ノ見ケ浦
四倉産婆組合長
産婆 中野 トク
四倉仲町

荒川 藥舖
四倉本町(電話二二〇番)

貸切自動車の
料金大破格—値下斷行
乗心持のよい
磐城タクシーへ
電話四五四番(平驛前)

銘酒の良 瓶詰
景品付賣出
東京日本橋 白木屋 化粧石鹼
昭和五年十月卅一日迄
一升瓶詰(一、二〇〇) 一本毎に一個宛進呈
◎空瓶は一本二十錢に御引受け致します
市内販賣店 同 材木町 緑 川口 商店 店
同 長橋町橋際 小 野 商店 店
平町以外各町村一店宛特約販賣の求めに應ず
發賣元 平町田町 **永山酒店**
電話二〇七番
印刷物は………加納活版所

謝十週年記念(思切つた)
思切つた 値下斷行
皆様の御引立により開業十週年を迎へました、御厚恩に酬ゆる爲に諸物價の下落に伴ふ値下を決行いたしました、尙ほ營業方法を改めて女給を廢しボーイを以て御客様に上品な接待を致させます。
來る廿一日より一週間
祝記念の爲として
料理一品に付五錢 ツ、を割引致します
平町、驛前 **カフェータヒラ食堂**
電話六二〇番

外科 一般外科 内臓外科
性病科 X光線科
入院隨意(自炊の便あり)
元赤心堂病院跡
安齊外科醫院
電話四七五